



住民同士のふれあいの場「お休み処 ねだ」に日よけのテントを設けました。花に囲まれ、会話にも華が咲きそうです。



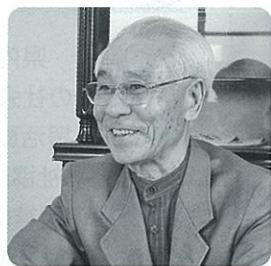
春の会食会の様子。参加者は手作りのお弁当を食べながら、会話を満喫。ケアマネジャーと一緒に体操も行いました。



活動15年目を迎え、昨年は「近所の願い・地域の夢づくり会議」と題して、10力年を目標とする地域の福祉活動計画を策定しました。

「策定にあたって4町内会450軒を対象にアンケートを実施したところ、『自分たちにもできることがあれば手

地域の願い 誰もが参加できる体制を



「有志の方からの協力金と市社協からの助成金を運営資金に活用させていただいています。皆さんの協力（わたなべ）で成り立っています」と会長の渡邊（わたなべ）忠利さん。

「この言葉は、経験から出てきた言葉。走ってみると、先頭に立つ人が、一人で突っ走り、なかなか人がついてこないという苦勞もあつて、あんまり無理をしても駄目だよ、みんなで協力しあつて、一つひとつやっていこうという思いが詰まっています」と渡邊会長。無理なく、気張らず活動を続け、今では、ふれあい弁当（ミニ旅行）会食会など活動の幅も広がりました。「義務になると負担になる。時には横道にそれたり、休んだり。できない理由を探すより、できることをやっていきたい」と言います。

「視察を受け入れる側になり、驚きでしたが嬉しく感じました。視察後にい

互いに学んで 「和」と「輪」をつくらう



福祉会の今後の目標が書かれた冊子「10力年地域の福祉活動計画」。アンケートで集計した地域住民の希望や夢も詰まっています。

「なかには、福祉会を知らなかったという方もいたので、原点に返って、私たちを知ってもらうことに力を入れた」と佐々木さん。今年は、福祉会の活動をより多くの皆さんに知ってもらうこと、そして「できる」とは手伝いたいという地域の皆さんの気持ちを引き出していくことに重点をおいた活動をしていきたいと教えてくれました。

「伝いたい」という意見が、年代を問わず多く寄せられました。池に石を投げると波が立つように、この福祉会で15年間やってきた活動が、地域の皆さんに何らかの影響を与えていたとすれば、とても嬉しく思います」と渡邊会長。

「なかには、福祉会を知らなかったという方もいたので、原点に返って、私たちを知ってもらうことに力を入れた」と佐々木さん。今年は、福祉会の活動をより多くの皆さんに知ってもらうこと、そして「できる」とは手伝いたいという地域の皆さんの気持ちを引き出していくことに重点をおいた活動をしていきたいと教えてくれました。



埼玉県三郷市からは約70人が福祉会の視察に訪れました。講義では福祉会のモットー「できることを、できることから」を伝えることができました。

ただいた感想は、今後の参考にさせていただきます」と佐々木さん。最後に、活動を継続していく秘訣を尋ねると、「はじめから周到な計画を立てて、きちんとしたものをやろうとしても難しい。試行錯誤し、つまづいたら修正し、転んだら起き上がる。あまり大げさに考えず、見たり聞いたりしながら、まずは動いてみるのが肝心だと思います」と渡邊会長は笑顔で答えてくれました。

福祉会が視察先から学び積み重ねてきた経験を、今度は福祉会を視察した団体に知ってもらうことで、地域づくりの「和」と「輪」が広がっていくことが期待されています。

「できることを、できることから」。 顔の見える交流でつながりを深めよう！

～4町内会の気持ちを合わせて助け合いの地域づくり～



毎回20食ほど作って高齢者に届けている「ふれあい夕食弁当」。週1回、1食300円で、希望者に届けています。

みんなで 育てる 地域福祉



伊達市

取材協力

伊達駅前住民福祉会

〒960-0471 伊達市長町6-3

TEL 024-573-9106

最初の一步… 喜ぶ顔を見たくて

「今から約20年前、隣近所のお年寄りの面倒をみてくれるとても元氣な一人暮らしのおばあちゃんがお風呂で亡くなつてしまったという出来事がありました。『なぜ、私たちが気づけなかったのか』。地域の皆さんは、とてもショックでした」と語る事務局長の佐々木恵美子（ささき けみこ）さん。また、戦後途絶えていた地元神社の祭礼、長岡天王祭の山車を運行し、寝たきりのお年寄りを訪ねたところ、とても喜んでくれたこともあいまつて、4町内会（駅一・駅東・駅南・根田）の役員が話し合い、伊達駅前住民福祉会の発足に至りました。

「お祭りの有志や、4町内会の役員など、それぞれ単独であったものが、これらの出来事につながりました。振り返ると、この福祉会発足に賛同してくれた方々、そしてその熱意と協力に頭が下がる思いです。準備期間に3年かかりましたが、どこから手をつけていいかわからず、ならば勉強しよう、と視察にはたくさん出かけました」と渡邊（わたなべ）忠利会長は話してくれました。



「平成17年にNPO法人ふれあいの郷だてが設立され、介護事業が行われています。福祉会も協力し、高齢者が安心して暮らせる地域づくりに取り組んでいきたい」と事務局長の佐々木恵美子（ささき けみこ）さん。

これまでもずっと 変わらない合言葉

無理をしないで、一歩ずつという願いから、「できることを、できることから」を合言葉に活動している福祉会。

「当時の高齢者を対象としたアンケートで、食事に対する要望が多く、配食事業をやることになりましたが、そのやり方がわからない。『遊び半分、勉強半分』と思い、さまざまな研修に参加しました。視察先で、集合住宅の狭い台所に業務用の机を運び入れ、お弁当を作る姿を見て、背中を押されました」と佐々木さん。夕食弁当にした理由を尋ねると、「日中は、隣近所にお茶のみにいたり、病院や買い物などに出かけたりすることも多い。その分、足元が明るいうちに、皆さん帰ってくるでしょ」と教えてくれました。

4つの町内会の協力で結成された伊達駅前住民福祉会は、「できることを、できることから」をモットーに、15年間無理なく、気張らず活動を続け、地域に住む人同士のつながりを確かなものにしていきます。